

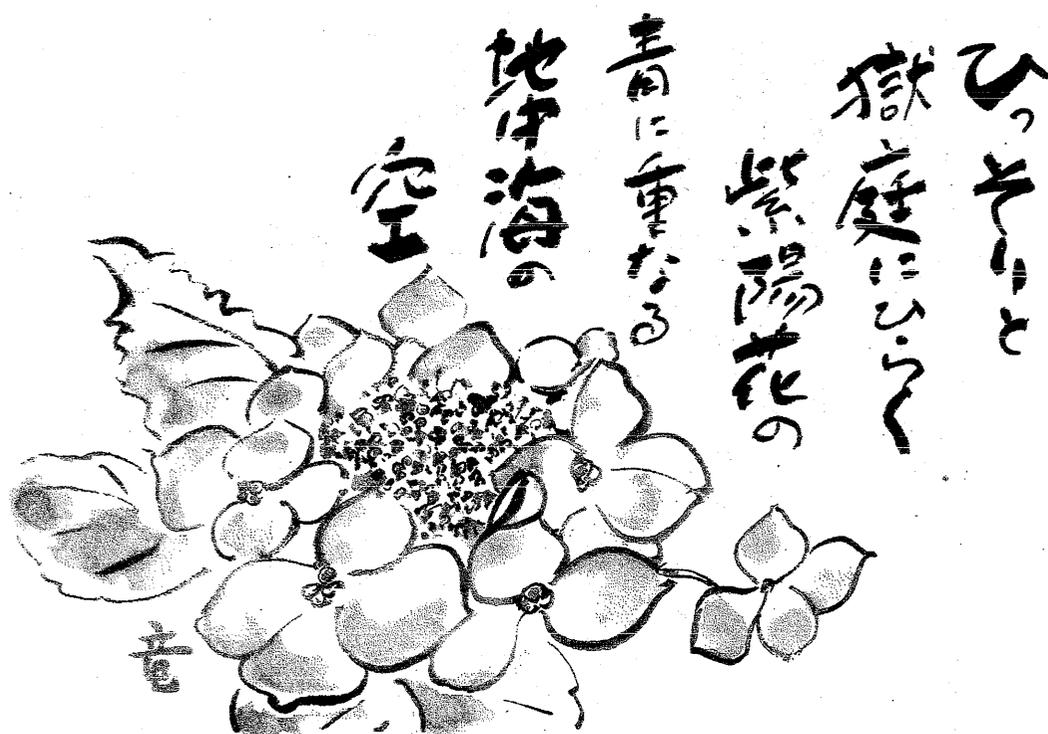
オリーブの樹

第112号

2012年7月15日

شجرة الزيتون

早期釈放！ 重刑策動をはね返し、重信さんを支えていこう！



目次

- P 2 暑中お見舞い 重信房子
- P 3 5月6月の歌 重信房子
- P 4 独居より 重信房子
- P 14 議会の機能停止 辻邦
- P 15 アラブ物語 (20) ステーションとしての党へ (2) 重信房子

重信房子さんを支える会

五月六月の歌

重信 房子

よみがえるはずもなき旧友^と声きこゆ振り向く先に紋白蝶行く

君が矜持襜褕の旗と翻り歴史となりぬ我らの時代

一周忌喪失感は海のごとく地中海へと連れ行け我を

面会室ライラの後に数々の倒れし戦友共に語らん

我が青春我が欲望と我が使命今も誘う風の共和国

俺は決して理性の囚徒に非ずというランボーの詩を刻みて発つ君

額アジサイ瑠璃色の花満つる日に吾子の面会手術は真近

一本のクローバー摘みてかぐ匂い獄の芝生は思い出の海

神々の指紋の宿るパレスチナ^{ナクバ}五月のあとの青きオリーブ

暑中お見舞い申し上げます

リッダ闘争四十周年には、ライラ・ハリッドさんを迎え、福島や経産省テント村にも交流しながら、アラブパレスチナを語り合う集いも、また、パレスチナ連帯のライブも大盛況だったこと、嬉しく感謝とエールを送ります。そんな合間を縫って、ライラもハ王寺に会いに来てくれて、感謝の再開も嬉しいものでした。

その間、「原発ゼロの日本の夏」は、市民の直接的な脱原発の行動を無視し、再稼働の夏になってしまっています。でも、各地の友人たちの便りには、新しい層の人々が立ち上がり、自分たちの力で暮らし方を変え、政治を変えようとしている様々な動きを知らせてくれて、ちやうど手術中の私をどれだけ励ましてくれたか知れません。

手術？ そうなんです。三月五日に子宮癌の手術をし、小腸腫瘍も十センチ摘出したのに、腫瘍マーカー値が下がらず、「PET検査」をして、新しい「癌らしきもの」を発見し、六月二五日に再手術をしました。癌は小腸の後腹膜のリンパ節にありました。一・七センチ程の「低分化腺癌」という、たちの悪い癌（再発転移しやすい、成長しやすい、遠くに転移しやすい）だったのです。ちやうど三年前大阪で小腸癌を偶然見つけて切り取った時から在ったものか、または、そこから転移して、その後育ったものでした。それと大腸のポリープも癌化していて、これも今回とりました。その結果、今日血液検査をしたところ、嬉しいことに癌が発見されて以来、初めて腫瘍マーカー値が正常化しました！きれいに癌を取り去ったので、腫瘍マーカー値が正常化したのです！もちろん微少の癌細胞が、特に悪性なために、再び転移再発になりうる可能性もあります。でも、どうして腫瘍マーカー値が下がらないのか？と、ドクターと抗癌剤治療であれこれ原因を探し続けて、やっと、PET検査から根っこを捕まえた気分です。

いい夏を迎えながらここを出て行くと、他の刑務施設できちんと再発対策ができるのかと案じつつ、次の持ち場の準備をしなければと思っています。自由への道へとさらに進むために。いつもの励ましに感謝しつつ私の治療の良いニュースを伝え、ご挨拶とします。

七月九日

房子



大本のガン処置できた…みんなありがとう！(7月9日)

重信 房子

5月15日 今日は沖縄の「日本復帰」20年日。
バーシム奥平たちが闘いに行く直前に、この話をしたのを思い出しています。当時は「沖縄独立」を訴える人々もいた頃です。「基地を固定化したままの復帰なんて、本土のアンボの犠牲だ」「沖縄解放って、沖縄の基地をなくし日米アンボも再考しないと」「やっぱり独立しかないのかな」。そんな話をしていました。今も沖縄に米軍基地がそのまま。新聞一面に88歳の米軍機の飛行差止め訴訟原告の女性の言葉。「あなたにとって日本とは？と聞かれて、小さな島に、いくさも基地も持ってきて。憎いさ」。太平洋戦争以前からずっと沖縄に犠牲を強いてきた日本。政府の政策を変えねばと改めて思います。今日の新聞の全面意見広告「普天間基地の無条件撤去を。辺野古にも新基地はいりません」に連帯！賛成！

今日は私はPET検査を行いました。CTでは目視できないガンの極小なものを発見することができること。ガン細胞がブドウ糖を大量に消費するのを利用して糖代謝が進むと陽電子を出す物質を注射し、組織に取り込まれたあと陰電子と結合して消滅しガンマ線を放出するのをPET装置で検出するというもの。このPET検査装置で検出すると、ガン細胞のある場所がわかるのです。注射後1時間待ってからCTに装置に似たPET装置に45分くらい入って終了。結果は来週でしょうか。

Kさんやぎ農園のお便りありがとう。発展しているようですね。健闘に励まされています。Kさんお身体はそちらこそどうですか？ こちらのツツジは庭のあちこちでどんどん白、紅紫、赤と咲きはじめてきれいです。Mさんの句“いつもの街原発ゼロの風薫る”ありがとう！

5月16日 午後診察。主治医から今朝の血液検査の結果を早くも伝えてくれました。腫瘍マーカーCEAはやや上昇し、手術前の数値にまた戻ってしまいました。

夕方、友人たちのお便り。Kさんグリーンから白に変わりつつある「おおでまり」の写真。季節を肌感じるようです。ありがとう！ Tさんの句は一茶のようにどんどん汲むほどに生まれているみたいですね。“六

十八歳一人芝居の夏デビュー”“五月晴れせつかくの目を部屋籠り” etc。「立夏」のデジカメ歌人の露の写真もありがとう！ “流れ来る人身事故報無関心を装いせねば悲しみに落ちそう”“終電のぐちゃぐちゃの匂い積み折り返してくる始発電車”。“救援”“状況”“アジア新時代と日本”その他資料感謝。

5月17日 今日も運動、といってもベランダのウォーキングですが汗をかく季節になりました。

友人から沖縄デーのデモに参加した様子が早くも届きました。“雨中デモ痛み分かってよ五・一五”これはTさんの句です。

東京では5月26日に中東フォーラムが板垣雄三先生、藤田進先生、白杵陽先生と共にライラ・ハーリドも参加して行われ、6月2日はリッダ闘争40周年ライブが京大西部講堂でパンタさんライラも参加して行われ、6月3日はライラ、板垣先生らのスピーチや討論とのこと。パレスチナでは70日以上も続いたハンスト、なかでも1ヶ月以上続いた1600人の集団ハンストは、15日ナクバの前日14日に、イスラエル当局が少しの要求を呑んだのでハンスト終了宣言。ガザからの政治犯への家族面会を認めないなど、劣悪な条件に抗議したものにパレスチナ各地で支援・連帯デモが続いていたものです。ナクバの5月の小さな勝利！

5月21日 金環日食でマスコミが湧き上がっているの、今日のその時に私も注視してみました。いつもは6時くらいには目覚めます。今日もすでに陽が注いでいました。ところがその後雲で覆われてしまい曇り空です。7時20分くらいからまた陽がさしてきました。私の房は南向きで東の太陽は見えませんが、木立の葉の映った地面に欠けた太陽の紋様が浮ぶ？と楽しみにしていましたが、それも見あたらず曇りはじめました。雲のせいかわ太陽が欠けたためなのかかわからず、時間がたってしまいました。

朝に休日中の郵便物を受け取りました。感謝。午後にはTV観賞を辞退して資料など読み込み。その後夕方にパンフ、資料などと共に「オリブの樹」111号も受け取れました。表紙の絵はこれまでと違って人

物が描かれていてカラーならもっといいのに！と思いました。感謝ばかりです。なずなの春の野のままの絵はステキですね！

夕方Tさんよりひさしぶりのお便りです。二度のガン手術をものともせず、関西の脱原発、反戦、反安保、沖縄の集いをあちこちの人々をつなぎ、より多様な運動や団体が一緒にやれるように奮闘している様子。これは本人はそんなふうには書いていないけれど、他の友人たちからのお便りでいつもTさんのリーダーシップが伝えられていますよ。

5月22日 M子さんのいつも楽しみな資料や写真入りのお便りはじっくり読んで楽しんでます。猫のチビケ・リルと犬たちの動向も目に見えるようです。フランス、ギリシャの様子やギリシャ左翼の歴史と選挙推移の資料もありがたい。4月5日の脱原発の集会やデモのレポート「最近の脱原発集会には僧侶やクリスチャンの人もかなり参加しているようになっていきました」と。ほんとと若々しい男女の僧侶たちの写真。その逆に北浜での「幸福実現党」の「原発賛成・再稼働賛成」の日の丸デモの写真、100人規模であまり動員もないんですね。「消費増税よりも宗教法人に課税せよ」室井佑月さんも主張してましたよ、賛成ですね。

Tさん資料、お便りありがとう。楽しい有意義な旅だったんですね。Tさん、立夏の白い芍薬すっきりとして優雅ですね。“我に似る十年使用のパソコンは拭いてもなお歩みが遅い”の一首に思わず笑いつつ、「拭いても」ですね、「叩いても」でなくてね！

受け取った資料に「丸岡さんの治療を拒否し獄死させた高検検事と八王子医療刑所長を告発しよう」という呼びかけがあります。その文の中に宮城刑から八王子への移監の際に、丸岡さんが「半年の余命予測」が申し送りされていたことが明らかになったことが記されています。2010年9月、丸岡弁護団から東京地裁に丸岡さんの刑の執行停止の申立てと国家賠償請求が出され、刑の執行停止はお門違いと却下されたが、国賠訴訟は分離して今も続いているとのこと。「この裁判で東京地裁は証拠保全請求を認め、八王子医療刑のもっている資料がようやくあきらかにされた」。そこに「余命半年」の申し送りがあったのですが、高等検察川口克己検事は丸岡さんの死の一ヶ月前の2011年4月27日、弁護団に“執行停止は瀕死の重症のみ。丸岡は刑務作業もしており瀕死の重症ではない”と事実を無視して執行停止を拒んでいました。八王子医療刑もどうして「瀕死の実情」を具申しなかったの

でしょう。医療刑務側がどこまで「執行停止」を主張できるのかわかりませんが、大阪医療刑では「よど号」の田中さんに対し「治療によっても命は救われない」と断じ執行停止されて、田中さんは家族に囲まれて最期を迎えることができました。裁判の中で「執行停止」の実態を広く調べてほしい。「死体」ではなく家族のもとで最期を迎えることができるように。私自身も切実な問題です。

5月23日 午後主治医の呼び出しでPET検査の結果を聞きました。腹腔左上のあたりに画像に光って映し出された腫瘍があるのが判明。CTでは捕捉できなかった1センチか2センチくらいのもので。正確にどの臓器かは特定しにくいのですが、大腸か小腸の内側か外側への転移だろうとのこと。CEAの腫瘍マーカーを上げている原因がこれみたいです。それで抗ガン剤治療よりも再手術を検討することになりそうです。ここでは医師たちも最善を尽くしてくれています。私自身は良い治療環境にあると思っています。

5月25日 今日は入浴日。腕が痛むので身体を洗うのもむずかしくて……。でもなんとか髪を洗い気持ちいい。手を頭の方に上げると痛む。五十肩ってこんなの？と思いつつ。

資料をいろいろ受け取りました。「選択」の「アサド政権は倒れない」という一文はおもしろかった。「アサド政権のアラウィ派は、輪廻転生に似た魂の流転を教義として、飲酒もOKで、イランのシーア派とちがう。またイランの「神権国家」とちがって、バース党は「世俗主義」という中東では常識的な話から、今のシリア内戦の危機は「宗教国家(カタールやサウジのスニ派による)より独裁の方がまし」というさまざまのシリア人の考えがある。加えて大国の思惑で「アナンの真の任務は『アサド存続』」という論調です。米・イスラエルは反体制派がアルカイダ系や反イスラエル勢力で収集がつかなくなるのをおそれているし、またロシアも経済的にシリアを手離さないのがその理由という分析。

また3月から5月の関西での「パイパイ原発」や原発ゼロ、大飯原発再稼働阻止の資料、新聞切抜き、ピラや原資料たくさん届きました。わかりやすく説明も書き込んでくれてTさんありがとう。広がり新しい層の方々の参加が伝わってきます。「京都緑の党」も元気に進みそうですね。それから「泉水国賠通信」受け取りました。Aさんのセンスいいですね、とても読

みやすいし印象深い装丁です。Sさんの人柄がとても良く出ている意見陳述、何も面会拒否の理由ないのに。またMさんの陳述で驚きましたが、ひどい！私を理由にして面会禁止。Mさんの泉水さんとの面会目的が私との連絡係と決めつけているのですね。面会記録では「さわさんから行くように言われて」と言ったときと「重信さんのことをまるで暗号名を解くような言い方とされていますが、歌人名として「さわ女」を名乗ることがあるのみです」とMさんは述べ、これまでも重信という名だけで会場を貸すのを断られた差別や偏見についても語っています。Mさんはよくお便りをくださいますが、獄中の他の人のことを書いて（Nさんが丸岡さんのことを書いて伝えようとして）「交通禁止」になったりしているのを知っていて、泉水さんのこともほとんど書いてこれないので、今日パンフレットで初めて知りました。「さわさわ」（アラビア語で「一緒に」の意味）という「関西支える会」で文芸的！パンフを出して、私が短歌の「選者」という“大役”を「さわ女」名で引き受けていました。岐阜刑にも泉水さん以外の受刑者も「さわさわ」に作句投稿し愛読していました。当局は知っているのだからいやがらせ、こじつけの面会拒否です。でもMさんの文にはうれしくなりました。「泉水さんと面会したよ!!!」は、Mさんのやさしくってしなやかで断固とした人柄が浮かびます。感謝。泉水さん3月のバースデイには連帯のあいさつを送りました。

5月28日 夕方お便り、休日分も含めて友人たちから。ありがとうございます。手紙を見ると元気が出ます。竜子さん「オリブの樹」の表紙絵すごいステキな色彩！そうか、表紙裏の妖精の踊りの歌のための絵だったのね！納得!! そっちの歌の方が表紙によかったかもしれません。5・30に編集室が私の希望に合わせてくださったのです。6月はNさんの命日のある月。バースデイもでしたか。梅雨に竜が降りてくるでしょう。また5・30の日にメイとライラが面会に来てくれるとのこと。大事な訪日の貴重な時間をさいて不許可になってしまったら……。

5月29日 穏やかな五月晴れ。今日は丸岡さんの命日です。朝亡くなった時間のころに南の庭を向いて合掌。そして新緑を目にして語り合いました。それから私の房から北側に向かって、また合掌。丸岡さんは100メートルほど離れた北側の棟に居たはずですが、私の窓は南向きで見えません。ペランダの運動の機会

にミヤコワスレと白いサツキのプランターの花を見つめながら考えていると何だか少しさびしい。「関の声 歓喜の声よりしみじみと寂寥流るる四十年目」。「仲間たちありがとう!」とことばが雫れます。

5月30日 晴。40年前の5・30のような穏やかな良い日。今日はライラとメイの面会の日。ドキドキ。会えたらどんなにうれしいでしょう。でもムリかな……。戻ってしばらくして昼食。食べはじめたところで面会！面会前に処遇首席に呼ばれて、「ライラさんは旧友ということなので許可します。一緒に来られた秘書は認められません。話は活動の話などはしないように。安否、見舞いということで。娘さんが英語通訳し、日本語で話すように」との寛大な措置に感謝し、「どこまで活動の話とされるのでしょうか。今、日本パレスチナの連帯友好記念に子どもたちのためのパークを作りたい話をしたいのですが」と言うと、過去のあれこれの活動じゃないので、いいでしょうとのこと。やっと会える!!とうれしい5・30です。

面会室にライラとメイがもう入っていて感激の対面。思わず英語で話しはじめると、メイから「日本語で話すように」と言われてしまいました。涙一杯ありがとうと話しているうちに、ライラを見てると自然に英語になってしまう。ライラから「PFLPのみんなが心配と関心を寄せていつもあなたと共にいるからね」と話してくれて、いっぱい励まされました。日本に来て、ライラはシンポジウムの他にもう福島にも行ったとのこと。すべて破壊されて、人間の一人も住んでいない不気味な光景を語っていました。パレスチナの占領下の闘いを思い出したのでしょうか。「日本とパレスチナの友好のモニュメントとして、子供公園、小さくても作りたい。私の本の印税の一部をいかし、心ある人の寄付も加えれば夢ではありませんから」と話し、「いい考えね！ずっと残るしね。ガザ！ぜひガザに子供の公園を連帯と友好の印として、やりましょう!」と喜んでくれました。私は走り回れませんが、少しずつうまくいけばと夢を描きつつ嬉しい5・30となりました。

「あの裸足の子供たちが、自分たちの後に続くのがわかる」と、リッダ戦士たちが最後に語っていたように、次代の友好の印としてぜひ実現したい。そんな話をしながらあつという間の30分。それでも丸岡さんの命日が昨日だったこと、ライラの新しい本が近々英国で出版されること。また病状を気遣う彼女に、またもうすぐ手術をする私のガンのこと、時間を気にしながら

語り合うことができました。顔を見つめ合い、もう41年前になる71年からの出会いを心に描きながら、本当に貴重な面会が叶いました。なごり惜しい別れです。アクリル越しに握手もキスもし合いました。

ライラ訪日の労をとってくださった友人たちや「ムーブメント連帯」に感謝。次の手術で少し気持ちがダウン気味だったけれど、励まされ、力が湧いてきます。5・30です。みんなありがとうございます！

5月31日 午後外科医の診察。外科医は3月5日の執刀してくださったDrと外科長の2人。処遇首席同席のもとで診察室で次のような話をされました。「今回も私が執刀を受け持つことになりました。ところがいろいろ複雑なので科長含めてチームとして手術に当たります。これまでの経過をまず確認します。(東拘での大腸ガン発見、大阪での手術と小腸ガンの発見摘出。以降の抗ガン剤治療などをまず確認した。)そしてPETの検査結果、左下腹部に2センチ大の腫瘍らしきものが映った。この位置からすると、確かではないが膵臓ではなく小腸粘膜が間膜と考えられる。良い結果の手術となることに全力を尽くすが、PETの映像一つで不確定要素が大きい。良い結果ならPETに映ったガンを見つけ摘出し、のちにCEAの腫瘍マーカーが下がること。そうでないこともありうる。一つはPETに映っていたが見つからない。手で触れたりエコー断層画像でも調べるが、それでも見つけられないということもある。またそれらしいものを見つけて切除してものちのPETの示したものとちがうこともある。つまりCEAが手術後も下がらないということもありうる。さらに見つけたが、そのPETの画像を見ると門脈など重要な血管が集まっているところあたりなので、摘出すると命の危険があると判断された場合は摘出できないまま閉じることになる。命のリスクのないように手術をおさめたい。もちろん手術後の腸管出血、合併症、腸閉塞などのリスクはあります」との主旨を説明され、質問したり話し合った。腹膜のガン、大腸ガンも考えられないわけではなく、不確定要素を少なくする意味でも大腸内視鏡を6月7日に行うことにしました。

6月1日 資料や雑誌受け取りました。「もう庭には毛虫が出はじめてこわごわです」とKさん。二人静、二輪草、新緑いいですね。八王子も今は良い季節です。でももうすぐまた手術です。梅雨になるとまたうとうういいですね。でも元気です。MさんはKさんの友人

のSちゃん宅から眼下に広がる琵琶湖の美しさのお便りをちょうど送ってくれました。一人芝居もいいですね。

6月4日 夕方に友人たちからのお便りで、「5・30東京の集い」が盛りあがったこと、ライラさんを囲んだいい集いだったと伝えてくれました。京都では6月2～3日の集いの準備に追われているとUさんから。またTさんからは5月31日に京都駅でライラたちを出迎え、和食の店でくつろぎながら得意の三線で沖縄民謡などで歓迎を楽しんだ様子。HさんもNさんも多忙の中準備も大変ですね。羨ましくうれしいお便り。

6月5日 朝、朝食は延食で、9:30から超音波の検査。外科の先生がPETに映っていた位置に器材を当てながら、「お！あ、それらしいのが見えますね」と腫瘍らしきもの発見！私も画像を見ながら確認しました。1.7cmくらいですって。「これで、開腹しても見つからない場合という不確定要素はなくなりましたね」とDr。大腸か小腸のようです。すぐそばに動脈があるがくわしいことはそれ以上わからないとのこと。午後はCT撮影。外科医から6月4日の血液検査の結果、腫瘍マーカーCEAがまた17.9(前回15.7)と上がった結果が出たこと知らせてくれました。

資料、雑誌など受け取りました。5・30リッダ闘争と丸岡さん一周忌の集いの「ムーブメント連帯」の心意気もうれしく読みました。5月26日のプログラムと資料！やっぱり中東の資料は身近な分野としてもうれしい。すでに前にMさんの送ってくれたUさんの資料もありますが読み返したい。ライラのスピーチ含めて今回の発言内容を学習したい。きっと「情況」に載るのか。楽しみです。この頃の「情況」はとても読みごたえを感じています。「かりはゆく」123号も受け取りました。アクティブに国賠訴訟から帰国へと新しく進める方向が述べられています。健闘に連帯しています。「憂国か革命かテロリズムの季節のはじまり」の本も受け取りました。これから読みます。I子さんありがとうございます。「6・2の京大西部講堂よかった!」との手紙、私も幸せ！「赤いTシャツをみんな買って、ライラさんにサインしてもらってとても嬉しそうでした。パンダさんのライブのパラードの2番を聞いた時体が震えました。房子さんがライラさんと面会で本当によかったです」と伝えてくれました。「また石切さんに行ってこようと思います。誰に何と言われよう(朗読劇の2次会の時、みんなに笑われたんです)有

オリオンの第12号

効なんですもん!!。ありがたい心づくしです。石切さんはお百度を踏んでくれるためです。あれで私、命拾っていますかね!! その意気をもって3度目のガン手術に臨みますね。

6月6日 午後は1:30-2:45まで待ちに待ったペペコンサートでした。いつもの催し物の時の講堂にびっしりの人。いつもより多い参加者。女区も18人。歌もメッセージ性のある歌。命や共に生きる(「共生き」)や「元気になろうよ」「会えたらいいな」など。二人で歌い、プロですからうまいし話術も楽しい。観客を参加者にさせて声をあげたり腕をふるせて、「願望の許可とってるから」と刑務所の施設用語もバッチリです。CDも宣伝し、「報奨金で買って下さい!」。新しく出た「会えたらいいな」は「領置金で買って下さい!」と笑わせつつみんなの心をつかみます。そして「会えたらいいな」と歌のタイトルの本の中にペペに届いた手紙の朗読。受刑者の父を持つ娘の手紙、みな涙ぐみ、本当にプリズンコンサートがみんな楽しみなわけがわかりました今日は307回目のプリズンコンサート。みんな楽しみ、アンコールは「いいじゃんか」で閉会。おもしろかった!

大谷弁護士より6月12日に面会に来てくださるとの知らせ。

6月2日西部講堂は300人を超える超満員。メインはライラとパンタさんの「ライラのバラード」ははじめ数々の演奏のすばらしさですとのこと。ライラのスピーチをメイが訳し、丸岡さんの妹さんもみえて、「ふうさんが居たら、一人一人挨拶して喋ってさぞ忙しい楽しさでしょう。マリヤンのことも触れたライラさんのスピーチは心にしみる話でジーンとききました」とのお便りも受け取り、目に浮かぶようです。6月3日は英語バージョンのパンタさんの「ライラのバラード」がオープニングを飾った討論会。

6月7日 今日朝から大腸内視鏡検査のため、起床の7:30前7:00から腸洗浄液「ムーベン」を飲みはじめました。午前中3リットル飲み午後から検査です。1:40から2:00くらいまでかけて主治医がモニターを説明してくださりながら腸内世界探訪。ポリープが3つありましたが、今回のテーマはPETの腫瘍と同じものを捜すので、生体検査用にポリープからは採取しましたが、1.7センチの腫瘍は見つかりませんでした。

夕方クラケンから6月2日の盛会だった「土曜会」

の様子。パンフと共に送ってくれました。(土曜会案内パンフはまだ。検閲を経て来週でしょう。)
「土曜会も昨年より活動が広く深くボリュームアップしております。6月2日の定例会もこんなに話題がたくさん盛り上がりました。Y君がレポートをテープを起こしてるのでもう少ししばらく待ってください。いつもながら彼の実直でいねいな仕事に私は頭が下がります」とクラケン。ガン治療にもとっても励みになるアドバイスありがとう。

Mさんありがとう。『6/2-3パレスチナ連帯ウィークエンド in 京都』は厳しくも熱く豊かな集りでした。すでに報告が届いていると思います。『リッダ闘争をイスラエルは歴史から消したがつている』であり、だからこそ、侵略を打ち砕くものとして『私たちはリッダ闘争を忘れない』と祭は高揚しましたと、熱い雰囲気も伝えてくれました。K子さん共にもいいですね。きっとYさんTさん命がけの気持で率先しているでしょう。連帯! Mさんからライラさんを京都に迎えた思い、それにライラさんと語ったこと、また歌った合間に「ライラさんが重信裁判の証人として訪日された発言。『重信さんは裁かれる人でなくて表彰されるべき人だ』と言いましたが、僕も同じことを考えています」と会場に訴えたことなど伝えてくれます。参加できなかった集いだけど、きっとそこに私は居ましたね!! 嬉しいです。「創」他資料もありがとう。

6月9日 梅雨入り。空は重たげで憂鬱なのは大飯原発再稼働の野田首相の厚顔のせいか。という気分。自民党との協調にまっしぐらで増税路線。これでは民主党は「政権交代の主張はすべてあやまりでした」と兜を脱いだかサギ行為。罰則規定ないのか?と不思議。野田政権のでたらめな転向は選挙で問うべきだし、原子力委員会は秘密会議で推進派だけで「新大綱」策定をもくろんでいることが毎日新聞(6月2日)で暴露され、大飯原発再稼働は決まっています、国民への「検討」のポーズのみ。国会の事故調査委員会の中で明らかになりつつあるのは、開き直りと無責任無反省の勝俣東電会長以下学会、官僚、政治家の面々。こんな利権と自分や自分のまわりの損得しか考えられない人々に乗っ取られている日本。脱原発の菅元首相を悪者にして調査を終えるのか? これからは変革の国民市民の力で、ぬえ的に逃げ回る支配層をどう包囲しているのでしょうか。

6月11日 今日月曜。外科部長、医務部長、処遇首

席同席で外科執刀医から先週の検査結果について説明を受けました。エコーでまず1.7センチの腫瘍をPET画像の位置に見つけたこと、CT画面で小さく映っている腫瘍を次に示しながら門脈にかぶさった位置にはないので摘出できると思うが、静脈が絡んでいるのでうっ血の可能性があり、どこまでやれるかは開けてみないとわからない。今の画像からの推認では小腸の外側の腹間膜の位置ではないか。小腸内側粘膜もありうる。MRI検査から胆管ではないことはわかっている。前に小腸の腫瘍で10センチ摘出した箇所に近い位置であり、どうどのくらい多く手術で摘出して今後の再発を防げるか、切除のパターンなどはその時の判断で行うのでまかせてほしい、との話でした。

今日はUさんからの5・30京大の集い、実況中継ふうりに6月2日分と3日分の楽しい報告2通受け取りました。6月2日やぎ農園の店出やMさんがフランクフルト焼いたり、Hカフェテリアの店出、旧知の人々やライラの登場。丸岡さんの獄死の共同告発人を呼びかける人々、スモールアダチの責任のもと、京大生たちがきちんと会場料を徴収。見あげると西部講堂の屋根に金色に輝く(かつては赤だったが、学生たちが引き継いで塗ってくれたとのこと)オリオンの3つ星。そして会場はさまざまな歌のグループ、Tさんも三線、そしてパンタの登場。ライラの前で「ライラのバラード」。すごい熱気! 書ききれない。

6月12日 今日特別面会で大谷弁護士が来てくれました。「月2回の面会枠」外になったのですが、1時間を申請して30分とのこと。大谷先生はガンの3度目の手術でどうなのか、私の医療関係の代理人として来てくれたのです。手術の見通しなどを話し、とても稀な小腸ガンのわかる医者を今後のことも考えて見つける必要を話合いました。消化管専門医は居ないでしょうか……もし居たら、友人のみなさん、教えてほしいです(大谷弁護士に連絡を)。

6月13日 Kさんもうアジサイですね。きれい! 私も昨日面会室へ行く渡り廊下のところ、咲きはじめて紫陽花を見ました。ドライフラワー展示会の成功を! 山アジサイはいいですね! Tさんは元気ですか? 届いたデザインの良い京大の6・2の祭のプログラムにTさんの演奏も小さくちゃんと出ていますね! AさんHさんやYさんや友人たちも40周年準備から最後までありがとうございます。

6月15日 午後、姉2人とメイらは外科医と面談して私への面会です。「とてもわかりやすくPETや他の写真でくわしく説明してくれて大変よかったです手術に納得できた。手術は25日月曜ですって」と姉が知らせてくれました。こちらは宿題の作業がいくつかあって、25日と聞いてホッ! メイは5・30の京都での集いに「お母さんの旧友」だという人たちに会ったことや楽しい様子を話してくれました。30分はあっという間に過ぎてしまいました。

「フォーリンアフェアーズ」その他資料感謝。M子さんいつもお便りありがとう。今回の「パレスチナ連帯ウィークエンド」の写真で臨場感もバッチリと受け取ることができました。京大の門に入ってすぐの西部講堂のオリオンの3つ星! 昔、高瀬泰ちゃんたちが屋根に描いた時は赤で、もう少し小さかった? 福岡伸一も心にくる場所として3つ星の輝く西部講堂で書いてましたね。今日いただいたM子さんの便りにも「パンタさんいつもに増して格好よかったです!」とのこと。パンタさんに聞かせてあげたい。丸岡さんの妹さんも明るくステキですね。鳥取から駆けつけたS介は若いなあ。M子さんとライラの写真もいいね!! ライラもとっても嬉しかったと思います。この企画にたずさわったみんなにお礼を伝えてください。彼やAさんにもね!! Mさんお便りありがとう。「新世界」なつかしい界限ですね。

6月18日 午後には手術後に入るオキシジンの吸引可能な房に今回は早めに引っ越し。もう手術体制。手術前にあれこれと作業も短歌も準備しようと思っているところです。Kさん、Mさん、Mさんお便り資料ありがとうございます。

6月19日 10時過ぎ外科医の診察で正式に6月25日の手術を伝えられた。手術の手順として麻酔後、まず最初に大腸ファイバーで大腸ポリープ8ミリくらいのものを摘出し、その後開腹してPETで映っていた2センチ弱の腫瘍を摘出すること。3月に手術した痕はケロイド状にもならずきれいなので、同じところを縦に開腹、小さくDrのこぶしが入るくらいもの考えているが、一番問題は癒着がどの程度かということ。開腹手術の方は2時間くらいと考えているが、癒着は剥離でもっと時間がかかるかもしれない。金曜(22日)から食事は無しで栄養ドリンクのみ。午後はひさしぶりのコーラス。80歳過ぎた美しい白髪のスプラノの先生と大声で「あめあめふれふれ」

から。NHKの東北大地震被災復興支援ソング「花は咲く」を少しずつ習いはじめて、あっという間に1時間。教え方も話術も巧みで楽しい1時間です。

友人のお便りでライラの東京の中東フォーラムや“祭”での交流会も知りました。Hオーナーシェフも大奮闘大サービスしてくれたとのこと。ありがとう！

6月20日 5・30関連資料たのしく読んでいます。みんなの参加サポート実務財政、いろいろあったのですね。思いがけぬ人まで協力して下さい、東京・福島・京都のライラの交流が成功裏に終わったのがわかります。みんなに感謝。丸さんもパーシムたちも彼岸で喜んでくれたでしょう。

Mさん、カンパとお便りありがとう。

6月21日 夏至。午後はメイの面会。仕事でまた主張となり、私の手術の時やその後も不在なので会っておこうと多忙をぬって来たのです。竜子さんお便りありがとう。生き生きとしたそら豆の絵、25日の手術尚さんの支えありがたく受けとめます。24日の墓参りでよろしく伝えてください。Uさんもアジサイの便り。大飯原発再稼働を怒りつゝのお便り。Hさんに感謝を伝えてください。Tさんのお便り、Yさんのこと、ガンを運動で吹き飛ばそうと「運動生き甲斐論」の話からTさんまで励まされたこと「太っ腹の包容力で人を元気づけてくれる得難い人」と感心して書いてくれました。

6月22日 今日から栄養ドリンク「テルミール400kcal」3本〜5本、下剤の手術準備です。10時エコー検査。腫瘍の位置、大きさ1.7センチ変化なしの最終チェック。その後オリエンテーション「5月25日10:00から手術。まずポリープを内視鏡で取り、その後開腹。10時前に女区棟から手術着に着替え、筋肉注射、点滴など準備して出発する。それまでに今日から3日間栄養ドリンクと毎日下剤（マグコロール 250ml）を飲み、夜錠剤の下剤も飲むこと」など具体的に指示されました。

6月25日 朝浣腸。空は曇り空、雨になるらしい。すぐ点滴など。そして手術室へ。行ってきます！ と書いたところでお知らせ。「花見の時の俳句が特選に選ばれました。貼ってあるので」と、廊下に連れて行ってくださいました。“桜の下しばし忘るる癌治療”特選とあり、他佳作優秀が1句ずつ。手術のうれしいさきがけ！

行ってきます！ あ、また休日中の手紙届いた。励ましの速達2通、他姉も。Iさんお百度参りありがとう、礼届きました！ 守ってくれる人が居て、こんなに元気で行ってきます。

(ここからは筆記は27日です)

戻ってきました。時間を聞くと2:45です。痛みもなく、前回よりも切るところが少ないので楽でした。外科医より「悪いところはきれいに取れましたよ」と話してくれました。私の方はポー。そして体中管や酸素マスク、背中に痛み止めの針、それにCVポートからの栄養補給。まだ頭も重いし寝ています。6月25日は血圧も120くらいと60くらい。

6月26日 体調は痛みもなく快調。外科医に「まだメモ化できないので、起きられるようになったら詳しく聞きたいですが、大腸ファイバーはどのくらいかかりましたか？」「大腸ファイバーのポリープ除去は40分。それから再準備に15分で開腹しました。やはり腸間膜の方であって（管の内側粘膜でなく外側）、しかも柔らかいものでした。時間がかかったのはやはり癒着が多くて、それを剥がしながら見て、1.7センチの腫瘍は取り除き、小腸の管をメスで裂いてみたが粘膜の方は正常な色状態だったので小腸摘出せず、裂いてチェックしたところを縫い合わせただけです」リンパとか摘出しなかったようです。「ここでは手術中のリンパに転移ないかのチェックする条件がないとのことです」。うーん、病理結果は来週に届くとのこと。「ありがとうございます」とお礼を言いました。

6月27日 夕食時近く、主治医診察。大腸ポリープ切除を担当されたので術中の写真を示して説明していただきました。「8ミリの直腸ポリープ、きれいに取れて、出血もなく、クリップで止めてうまく終了した」と内視鏡によるポリープ切除の様子よくわかった。明日木曜までの予定の痛み止め注射を手術直前から背中にしたまま管でつながっていましたが、「もういいでしょう」と在席中の（いつもの外科医でない手術には参加した）Drがチェックし、背骨の針をとってくれました。ところが夜になってぐんと痛みがはじまり、薬で止めていた痛みがあらわになったようで、熱も38度と眠れず鎮痛剤の点滴を打ってもらいました。

6月28日 明け方ぐしょり汗をかき、痛みは「通常の手術の痛み」に戻りました。（手術直後から2日間はそれすらも消えていた）はりきりすぎて動きまわり書

きものしたり、前回より早めにあれこれと着手したことを反省し、今日は静かに寝て過ごすことにしました。本や資料ちやうど大量に届いたもの読みたいけど自重。

6月29日 手術から4日目（当日入ると5日目）。朝外科医の診察。手術中の写真を見せてくれました。「PET検査で示された小腸のところはやはり『小腸間膜』、つまり消化管の粘膜の内側でなく外側にあり、きれいに取りました、と示してくれた。写真に丸い1.7センチの腫瘍。そばに1.5センチくらいの小腸を数ミリ細くメスで切り取ったもの。この切り取ったところから小腸内側を見たが正常だったのでそのまま縫って閉じ、小腸そのものは切除しなかった」と説明してくれた。さらに「切除した腫瘍は柔らかく、白と薄いクリームで脂肪状で、前の小腸のガンとちがう。今病理検査に出しているのが悪性かどうかわかるだろう。この切除で腫瘍マーカーが下がると問題は解決するが、下がらないこともあるかもしれない」と慎重です。小腸は腸の癒着がひどく剥がすのに時間がかかったこと、広い範囲での小腸の切除はしなかったことが伝えられた。でもPETで写っていたところの腫瘍はきっちり取れたので病理検査結果を待って判断されると思います。

姉からの手紙に“友人たちからの手術結果の問合せが来ている”ことや“Dr面談は病理検査の結果が出てからになるので、面会は7月10日にしようと思う”とのこと書かれていて、みんなの様子も少しわかります。友人たちのお便りもありがとう。そういえば「特選」句の賞品としてシャープ1本いただきました！ 夕方処遇より告知、「6月23日受信の1通128条により禁止」とのことで、名前は教えません。Kさんかと思って「4通目の禁止ですね」というと、「この人は2通目」とのこと。誰の手紙だろう……。

6月30日 梅雨はどこへやら？の晴天。大飯原発再稼働を控え、市民の官邸抗議行動が日々怒り拡大し、29日夜にははるかに10万人を超えた人びとが官邸を取り囲んでいるとのこと。

7月2日 朝8時お茶飲み許可。それで咳き込んだ時苦しさが緩和されます。水も飲めず咳き込むと苦しく、傷口痛いけどもう大丈夫みたい。今日からパジャマも夏物に交換。昼には重湯です。それにほうれん草入りのポタージュ少量、すったリンゴとヨーグルト、レモン一切れ、栄養ドリンクメディエフ200kcalでしたが、

レモンティ、栄養ドリンクはもうお腹に入らず。お腹一杯で水分一杯。午後外科医の診察で、まずCVポートでつないだ栄養点T記は解除。これで点滴柱を動かしてトイレ行く煩わしさはなくなり自由！ そして抜糸。抜糸は2回に分けて行きます。

Kさんフェスティバルに出店されたみごとなドライフラワー「おおいぬめぐり」「ほとけのざ」「野のすみれと母子草とつくし」。自然のままこんなに美しく保てるんですね！ いつか見せて下さるとのこと楽しみ！ デジカメ歌人は涼しい夏至を過ごしたとのこと。「たゆたふ」という写真の空がみごとです。“陽が残るマンション群の隙間道ひとふで書きになるように歩く”姿が浮かびます。宮崎先生、私の方は手術はうまくいって順調です！ 本ありがとうございます。先生の方はご多忙なのに気遣って下さって深謝。

夕食来ました。また重湯と肉味のスープ、野菜ジュース、プリンレモネード、栄養ドリンク。流動食は満腹で、重湯肉味スープ、プリン一杯。

7月3日 夜中に暈のかかった満月近い月を見ました。朝はどんより曇り。それでも手術後初のベランダウォーキング。まだ痛むお腹を抱えるようにベランダへ。一輪咲きのような紫陽花の鉢花をつけていました。手術した人はわかるので、ひさしぶりの登場に「大丈夫？ よかったね！」とねぎらってくれて、患者同士で自分の病気や手術の話。「まだ歩かない方がいい」と、椅子を勧めてくれてしばらく座ってから、「やっぱりウォーキングしたいから」と、ゆっくり歩きました。気持ちいい。戻って10時過ぎ外科医診察、2回目の抜糸。これで「入浴もOK」とのこと。「でも朝も重湯で力が入らない」と言うと、昼食から五分がゆになると教えてくれました。

昼食は五分がゆ、バック入りかに風味テリーヌ風800g、100kcal クリームスープ、炊り卵ケチャップ、佃のり少々、すりおろしりんごヨーグルト。夕食も同じようなボリュームでよく食べました。

I子さんからアジサイの花の絵のお便り、手術の無事をとっても喜んでくれてありがとう。「お百度参り」のおかげですよ。それに手術日が命日の大学の先輩の墓参でも守ってくれるようになって、夫人もたのんでくれたし。Iさんは「昨日は日帰りで大飯へ行ってきました」とのこと、東京からも駆けつけて、600人くらいで現地闘争、「さわさわ」仲間も現地で泊り7月1日再稼働抗議デモ。こちら着々元気、I子さんの早いお見舞い便りに感謝。

7月4日 やっと座って字もまともに書けるようになってます。今日は朝から真夏日。ペランダウォーキングのあと手術後初の入浴。傷口チェックしたらほんの少しガーゼに血がまだ付くので透明フィルムの大型バンドエイドで傷口が濡れないようにプロテクトして、お腹をかばいつつ入浴15分。

今日は昼から「全がゆ」で、おかずは豆腐を揚げたものの中に野菜やしいたげの入ったもの。サツマイモ煮、煮豆と野菜。おかずを少し残して食べました。身体が要求してもりもりといった食欲です。

午後、主治医診察。体調を確認し、回復は早いほうだと言われ本人嬉しくなっています。今回の腫瘍と大阪の時の腫瘍を病理検査で比較チェックして、同じなのか調べられないのか？と聞きましたが、大阪にあるものはこちらには来ていないので、それがどう可能かはわからないとのこと。転移・再発・原発をどう認定するのか？を訊ねたところ、化学物質で試薬とかチェックするというふうに考えていたが、そうではなく顕微鏡で腺ガンの細胞構造を見て調べていくものらしいです。「転移」とくにまったく症例のない「小腸ガン」について、ネット記事など見かけたら送ってください。

7月5日 開腹して縫い合わせた傷口が開いてしまいました。昨日入浴時、少し出血があり、水分遮断フィルムを貼って入浴。今朝それを小さなカットバンに貼り替えてもらったのだが、ペランダ運動後房に戻って「拭身」(夏期7/2から運動後、入浴後、夕方7時の3回3分間のみ水を汲んで身体を拭くことが許可されている)をしようとして下着を見たら、血の混じった体液が噴き出してしまいました。看護師さんに広いフィルムを貼ってもらい夜チェックしてもらおうと、ひきつづき水分(血の混じったもの。膿のようにどろっとしていない)が出るので、水液を出してガーゼを広くかぶせて、手術以来使っている腹帯をきつく巻いてもらった。傷口が開いているのは2ヶ所とのこと。

友人たちからの励ましありがとうございます。姉からもMからもありがとうございます。

7月6日 今日はやはり入浴は不可。傷口が閉じるまではムリですね。午後外科医診察。まず傷口の治療。Drは体内の脂肪が融けて溢れているものとのこと、出てくる水分をしばらく出して消毒し、ガーゼでとめて腹帯を締めました。そのうちくっつくようです。どのくらいかかるか？と訊ねると「1週間くらいかかりますね」とのこと。

その後すぐ外科長、処遇第一統括官が入ってきて同席の上、6月25日手術の病理検査の結果を知らせてくれました。「検査報告書には3点について記載されています。①が大腸ポリープ、②が腫瘍、③が小腸を切り取った粘膜などについて。まず①の大腸ポリープは8ミリと小さいものだったが一部ガン化していた。すでにきれいに切除できたので問題ないです。小さくても大腸ガンだったわけです。②はあとにして、③ですが腫瘍がついていたのは小腸外側の間膜でしたが、内側粘膜はガン細胞は無し。問題なかった。ついでに腫瘍を焼き切って取った時、追加で小さい肉片2片取ったもの。これもガンは見つからず問題はなかった。本命の②17ミリの腫瘍ですが、やはりこれは想像したとおり3年前の小腸ガンの転移と考えられる「小腸間膜のリンパ節がガン化したもの」でした。この小腸ガンはたちの悪い「低分化ガンの腺ガン」です。腫瘍を真ん中から切った写真の白い部分がリンパ腺で、クリーム色と絡まっている。このクリーム色がリンパ腺がガン化したものです。腫瘍としては大腸もまた「PET検査」で発見された小腸ガンもきれいに切り取れていますと説明して下さった。大腸の方は早期発見切除で良い判断だったのがわかりました。またPET検査で発見し、すかさず切除し、リンパ節の丸い腫瘍ごと取り残しなく取れた小腸のガンもとても良かった。

限られた条件の中での最善の治療だったと思い、その点を感謝し伝えました。そしてこの「小腸ガン」いつからなのか？3年前のガンと同じものなのか、大阪で手術しても一度も腫瘍マーカーCEAは正常化しなかったが、大阪のDrは「CEAが正常化しない場合にはどこかにまだ取り残しがあるはず」と言っていた。当時から存在していたものだろうか？などをDrに訊ねました。Drは大阪手術以来ずっと抗ガン剤治療を続けていたのでこの大きさにおさまっていて、前からあったものかもしれないし、それらはわからないとのこと。ただリンパ節が「原発巣」ということはありえないので、3年前の小腸の転移であることは間違いないようです。それが3年前のものか、いつからかはわからないということらしい。大阪の小腸ガンは粘膜が黒くびしゃびしゃと見るからにガンらしかったのですが、今回は「リンパ節」という場所の違いのためなのか、またはまだ熟成度の違いなのか、見た目はまったく違っています。「低分化ガン」というのは悪いガンとのこと、大腸は3年前も「高分化腺ガン」でしたが、小腸は「低分化」で粘液酸性化ガンということらしい。腺ガンを顕微鏡でよく見て、ガンの構成の

度合で区別するらしいのですが、高分化は本来の細胞によく似ていて悪性度が低いらしい。「悪性度」とはどんなものか聞いてみると、再発しやすい、ガン化しやすい、悪くなるのが早いということらしいです。

そんなわけで私の症状というのは東拘でも八王子でも初のまた日本でも症例の少ない「小腸ガン」の転移再発ということ、しかも悪性度の高いものと理解しました。今後はこの手術によって、CEAの腫瘍マーカーがどう下がったかをフォローした上で、治療方針を決めるとのことです。再発を早期に発見できるよう腫瘍マーカーチェックやPET検査の定期的可能な条件が今後も確保されるように、また再発がひき続き起る悪性度の高い小腸ガンであることもわかったので、前に大谷弁護士が「新監獄法」にもとづいて「指定医」がフォローできるようにすべきだと話していましたが、誰か消化管の専門医の先生を捜してくれるよう友人たちに頼めるといいのですが。

「小腸ガン」はほとんど発生罹患しにくいものでガイドラインも無い「大腸ガンガイドライン」に準じて治療をしていくことになるのでしょうか。外科診察は7月9日(月曜)のCEA腫瘍マーカーの血液検査と7月10日の姉ら親族のDr面談を確認して終了。

ちょうど夕方、Tさんの手紙に、友人が今後、私の治療に協力できることはないかと言っているとのこと、が書かれています。協力してもらえるのは大変ありがたいことです。

7月9日 今日は夏らしい日。朝採血。腫瘍マーカーがどこまで下がるかと期待してしまいます。午前中ペランダウォーキング。患者同士、手術した人、これからの人も励ましたり慰めたり、狭いところに十数人いくつかのグループでがやがやと話したり歩いたり。

午前中にYさんからの6月2日の「土曜会」の詳しい報告を受け取りました。みんなの様子、またフクシマの放射能汚染に対するIさんのスピーチ、実情がよくわかり、みんなの熱気も伝わります。それからバス仕立てで東京から「大飯原発」行ったのですね！それに7月16日10万人集会へのさらなる動員で活発な討議！土曜会がプラットホームになって人々と結び合いがどんどん広がり前向きなのがうれしい。ありがとうございます、旧友たち！

午後は外科診察。Drは開口一番、「腫瘍マーカーが正常化しましたよ！」と嬉しそうに伝えてくれました。ガンを2008年12月に告知受けて、手術3回で初めての快挙！「もう身体の中のガンは取りのぞかれま

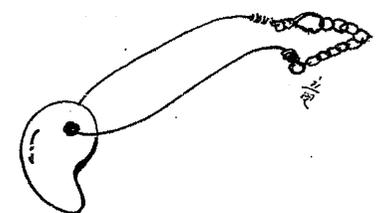
した。微少なものはあるかもしれませんが。CEAは4.7、CA19-9は8.3です。良かったですね」今回の小腸ガンの正式名は？と聞くと「『小腸後腹膜リンパ節の再発低分化腺癌』といえるでしょう」、「ステージとかはない」とのことです。もう一、二度CEAの数値をチェックし、その上で正常ならガン治療は終了です。ただ低分化ガンは再発ガン化しやすい、遠隔転移しやすい、進行が早いなど悪性度が高いので、術後厳重フォローが必要です。これはCEAの定期的血液検査を他の刑務施設ではどこでも行えるので、それでフォローし、上昇するならCTやPETなどの検査で対応できるとのこと。術後の微少ガンに補助治療として一度抗ガン剤治療を行うかどうかは主治医と相談して決めるとのこと。

やっと大本のガンを見つけて処置できた気分がうれしくなりました。みんなのおかげで元気ももらいながら、ガンの割には悪化した体調はなかったなあ……抗ガン剤の副作用が苦しかったくらい。脱原発でかつての闘いの教訓を生かしながら闘っている友人たちを思いつつ力がわいてきます。みんなにありがとう！

点呼後にひさしぶりにTちゃん(N)からお便り。うれしいなあ。「コラムに房子ねえちゃんのことを書きました」と送ってくれたのね。まだ受け取れていないけど楽しみ！Tさん、ありがとう。私の手術の経過よかったことを喜んでくれています。米澤さんにもよろしく。Tさん多忙の中、「大飯」も物件管理も劇もと大忙しですね。一人芝居のシナリオもありがとう、脱原発の替え歌も「あいたいなあ」でやってみては？「梅雨の雨闘志をそとたくわえる」いい句ですね。

明日はCT検査。それに姉たちがDrと面談する予定です。Drも「腫瘍マーカー正常化」を伝えてくれるとニコニコしていました。この八王子にいれば体調はチェック管理されていて安心なのですが、他へ移ったら自分の側からよく提起しないといけなくなるのでしよう。そのためにも指定医を持って、定期的にチェックしてもらえ体制をつくることは、他ならなおさら必要になってきそうです。みんなの協力でそうした条件をつくれるようにしたい。

8月弁護士面会で話できますように。



議会の機能停止

辻 邦

●野田迷言集

「原発は重要な電源だ。国民生活を守るために再起動すべきだというのが私の判断だ」
 「日常生活への悪影響をできるだけ避ける。原発を止めたままでは日本社会は立ちゆかない」
 「夏場限定の再稼働では国民生活は守れない」
 「事故は決して起こさない」

6月8日夕方、首相官邸で行なわれた記者会見の席上で、大飯原発再稼働容認を示した際の野田佳彦首相の発言だ。いずれも、憤りを通り越して、情けなさを感じてしまう迷言集だと言える。

原子力発電の危険性については、原発賛成派の人々ですら十分認識しているというのに、仮にもこの国の政治の最高責任者である総理大臣が、この程度の幼稚な見識しか示せないという事実を、我々はどう受け止めるべきなのか。

「国民生活を守るために」原発再稼働を認めるという野田の論旨が、最初から破たんしていることは、各種世論調査で再稼働への反対が常に6割以上を占めていることから明白だ。世論の半分以上が反対する原発再稼働が、なぜ「国民生活を守る」ことを意味するのか、さっぱりわからない。

「日常生活への悪影響をできるだけ避ける」という発言も筋が通らない。それでは消費税増税問題はどの位置づけられるのか？ 出口の見えない半永続的不況の中、庶民や中小企業はただでさえ苦境にあえいでいる。そんな状態で消費税率が8パーセント、10パーセン

トとアップしていけばどうなるか、ある程度想像力が働けば容易に理解できることではないか。

おまけに野田政権は、米国と財界の圧力の元にTPPを推進している。消費税増税とTPP加盟が日本経済や庶民生活にどれだけの影響を与えるかについて、推進派である野田をはじめ各閣僚や民主党執行部、自民・公明党幹部からは何の声も聞こえてこない。

さらに、「原発を止めたままでは日本社会は立ちゆかない」と野田は言うが、事実は逆ではないだろうか？ 原発は稼働すればするほど、人間の科学力では処理不能な核廃棄物を日々生み続けていく。核廃棄物の管理・貯蔵にかかる巨額な費用は、これまで税金や電気料金など国民の負担の元で（それに賛成した記憶は全くないが）行なわれてきたし、今後もそうせざるを得ないだろう。高リスクで高コストな廃棄物を生み続ける原発を止めることが、「日本社会は立ちゆかない」とはどういうことなのか？ これもまた理解不能な発言だ。

●「一番素晴らしい首相」野田

大震災から1年が過ぎた際、経団連会長の米倉弘昌（住友化学会長）は、野田について「過去数代にわたって一番素晴らしい首相」（3月10日・産経新聞）と称賛した。震災復興もままならない中で、ひたすら原発再稼働・消費税増税・TPP加盟を推進し続ける野田を持ち上げる米倉の発言は、異常としか言いようがない。米倉に言わせると、野田は「あらゆることをよく理解し、国益や国民生活の観点からみている。過去数代にわたって一番素晴らしい首相」なのだそうだ。

「この老害が！！」と罵倒したくなるが、米倉は原発事故の直後から「東電は被災者」などという発言を繰り返してきた男。つまりは確信犯。東電擁護派というよりも、財界ぐるみで東電を支えてきた中心人物だ。だから、脱原発に舵を切り始めた前首相の菅直人を厳しく批判し、逆に経団連など財界が主張する法人税減税や消費税アップ、TPP推進に“政治生命”をかけるという野田を、“素晴らしい”と持ち上げているのだ。

●小選挙区制の全面改正を

「議会制ではもう無理だ！！」——。 昨年末、講談

社文庫からレーニンの『国家と革命』の新訳（以前、ちくま学芸文庫から出たものの改訂版）が出た。件の言葉はその帯に書かれたものだ。果たしてレーニンがそう言ったのかどうか、私は知らない。しかし、この言葉は現在の日本の議会制民主主義の在り方に投げかけられた、厳しくも本質的な批判だと思う。

この国の議会は、正常に機能しているとは言い難い。世論の半数以上が反対する原発再稼働や消費税増税、TPP推進を、数の力で有無を言わず強行突破する

アラブ物語(20)

ステーションとしての党へ—ヨーロッパを戦場とした誤り(2)

重信 房子

4. 5月パリの会議

リビアから北アフリカの国に寄って、欧州に戻ることになった。そしてパリに入った。もう5月中旬を過ぎていたと思う。パリの良い季節。在欧の仲間たちは歓迎して、観光地も案内するという。カルチュラタンの5月の石畳を歩き、御茶ノ水あたりを思い、オペラ座は歌舞伎座のようねと課題や仕事に眼を奪われていて、観光にはあまり関心も興味も示さないで、パリの日本人たちをがっかりさせたようだった。後になつたらそうでもなくなったが、当時の私は、観光にはほとんどどこに行っても強い興味が湧かなかった。

中東は歴史の宝庫なので、友人が来ると見たいという歴史遺跡に連れて行ったり、付いて行ったりするくらいで、自分から見てみたいという欲望がなかった。毎日てんでこ舞いのせいもあった。ウィーンもリビアもパリもそうだった。それでもウィーンではオペラやオペレッタで有名な劇場や公園、リビアでは20世紀に砂浜から掘り出されたローマ遺跡の広大な跡、パリでも凱旋門やエッフェル塔などを誘われながら通ってみた。

シャンゼリゼ近くの友人のかなり豪華なアパートの部屋に落ち着いた。在欧の仲間たちが準備してくれた行動予定にそって日本人や他の国の革命家など様々の人々に会い、パリでの短い時間をすごしていくことになる。

私たちのこれからつくりあげるステーションとしての党の中継中心地としてパリを位置づけていた。アラブと日本を結ぶ位置と捉えていたためであった。

パリに入り、仲間と再会したところで思わぬ話を聞いた。ドイツ、デュッセルドルフで調査中に警察にひ

姿勢の、一体どこに民主主義があるのか？ 小選挙区制という史上まれなる悪制度により出現した現在の国会は、民意を反映してはいない。事実上の機能停止に陥っていると言っても過言ではない。

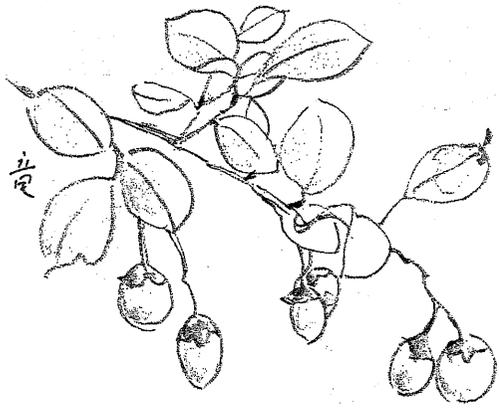
このままでは、この国の未来は危ういと言わざるを得ない。民意を反映しない小選挙区制を全面的に改正しない限り、衰退は決定的だ。「全てが手遅れになる前に何とかしなければ」という想いに駆られているのは、おそらく私だけではないだろう。

っぱられてしまったというのだ。そのため、まだドイツで調査中のはずのYが、在欧の仲間たちとすずにパリに戻っていて、シャンゼリゼ通りのアパートにいて、私を出迎えた。

当時アラブから調査指揮に加わったYは「命知らずのトラック野郎」といわれた在欧仲間のGと、ドイツのアウトバーンを150KMを軽くこえて走り回っていたという。日本商社の支店長をデュッセルドルフで拉致すると仮説を立て、ドイツから南下して、スイスの一角に予定の隠れ家を定め、国境を越えて連れて匿う計画らしい。スイス人に請け負ってくれる人がいるとかで、北のデュッセルドルフから南へとアウトバーンを一気に走る調査としていたようだ。そして、Yは自分が攻撃作戦の指揮をとるのだから運転ができないと困ると思っただけ。息抜きにデュッセルドルフの公園で、Gに頼んで運転の練習をはじめたところで、ポリツァイの覆面パトカーに咎められた。そして、交通違反でそのまま付近の警察に連れて行かれてしまった。

両ポケットには二つの旅券がある。拘束されたら荷物検査で大変なことになってしまう……。とにかく、平あやまりにあやまって、法外な罰金を払ってほうほうのいで逃げ帰り、調査を中止することにしたという。パスポートは本人のものと、アラブでの出入りに使用していたものと二組持っていた。

当時、中東の国々のスタンプ入りの旅券を持っている日本人は「日本赤軍」と疑われる、という在欧の仲間たちのアドバイスで、欧州で使う旅券と中東用をわけていた。とにかくGもYもそこで名前はあきらかに記録されてしまった。当時はこうした地下活動のやり



方は在欧の方からアラブの私たち日本人は学んだ。中東パレスチナの解放勢力は解放区もあり、公然とした事務所も武装駐屯地もあり、活動スタイルはちがう。

中東での私たちの活動は、「死に居る」活動スタイルで、イスラエルに目をつけられない地域や場所に住んでいた。アウトサイドワーク部局はイスラエルとの地下戦争の最前線で、常に暗殺や破壊される危険にあったため、こうしたパターンと違う独自の地下活動を取っていたが、私たちにその実体はわかりにくかった。そのため、在欧の人々の助言が良い学習となっていた。

私はパリに入って J、I、G、Kらの計画を具体的な進行としてはじめて聞いた。ターゲット予定の商社の支店長のまわりの人脈からできるという調査は、かえってあとで在欧の仲間たちの関与を疑われないのか？と私は聞いた。これまで二、三カ所の日本商社を調べていたが、やはりこの商社が知人がいるせいもあるが、やりやすい地形でもあると言う。私の質問から話がそちらに中心になってしまった。やはりバレる可能性もある。でも調査だけやっても、知り合いが作戦には参加しないなら大丈夫だろう。はじめからわかっていた話じゃないか、雑談しつつ、侃々諤々の話となった。

Jの「ここまできたらやるってことでしょ」という発言に私も言った。「でもアラブの日本人だけでは無理だし、PFLPのアウトサイドワークとやれば、財源確保はのぞめない。アウトサイドワークには彼らの在欧部隊があって、日本人の出る幕はない。だからやるなら調査だけでなくGも加わらないとむりなのは？」と私が言うと、Iも「PFLPの指揮下では、これまでの調査活動にしかならない」と言う。ちょうど、リビアでドバイ闘争部隊の人々のアウトサイドワークの作戦立案のミスや批判を、ニザール丸岡から聞いてきた後だった。ドバイ闘争の部隊が批判しているのに、アウトサイドワークと一緒にやることにはなり得ない。実力もまったく違うので、私たちの自立のための作戦にはなり得ない。「革命組織との共闘は打診している」とJが言う。「在欧の仲間も作戦部隊に加わるということにしたらどうか」とGも志願して言う。それしかない。とにかくやることを前提にさらに知恵を練ることになった。

Yは「この手の調査はパッと見ただけではまったく軍事戦術も決められない。デュッセルドルフに住みついて調査すべきだ。他の人を送ろう。自分は今無理だ。ドイツで旅券のコピーもとられたから」と言う。

がっかりしたが、私も在欧の仲間たちもお互いに対

して幻想をもっていたので、実力のなさに気づきはじめていた。それでも、在欧の仲間がアジアの仲間と共に進めてきた解放放送局のプロジェクトにも、また新しい組織の出発にも、財源が必要だ。何とか乗り越えるしかない。今の「ホンヤク作戦」のもっともむずかしいところは、長期の人質を確保する秘密の隠れ家体制にある。

この点ドイツで作戦を行ないながら、道をへだてたスイスの友人がひき受けることが可能だろうというのがJの話だった。すべての描いた構想は、Jの人脈の中にあった。結論として、今後デュッセルドルフ近くに滞在してもっと調査を深めることにした。

こうしたホンヤク作戦の他に、私は外国人やまた日本人たちとも話し合いを持った。この時代ベトナム反戦などで協力した人々がパリ、ドイツ、ストックホルムからアメリカまで日本人同士の人脈がつながっていて、Iが「やる気のある人はたくさんいる」というのは本当らしかった。彼らの何人かと会い、今後とも協力関係を持つことを語り合った。

こうした話し合いの中で批判する人々もいた。Iが中東から戻って来ては勝手な指示を出すやと不満を述べる人もいたし、また、北欧の日本人留学生仲間をよく言わない人もいた。ベルリン在住の人たちからだった。在ベルリン日本人留学生たちは、マーケットで少しでも安いものを買おうと生活し、アジア人差別に対して他のアジア人と連帯している。それにドイツ人左翼とも、71年の天皇訪欧時逮捕されたドイツ人の公判闘争を闘っている人々がいた。

この人々は、ヒコと呼ばれていた日高さんたちと仲良くしていたが、北欧の留学生日本人たちと一線を画していると言っていた。彼ら北欧の日本人留学生たちは有利な特権を利用して働かない連中だと批判していた。本当のところはよく分からなかったが、アラブ赤軍を助けようとしてIらが無理を在欧の仲間へ押し付ける格好になり、反発されていたのかと当時をとらえ返している。

また、フランスにはフランス人とフランスに居る日本人たちでミニコミ誌「いりふねでふね」を出し、文化的な友情のつながりを育てようとしている人たちがいた。

その中には、東京女子大を卒業後NHKでアルバイトした後、語学留学のためパリに来た山本万里子さんもいた。彼女は、フランス語留学のかたわらパリの三

越でアルバイトをしていた。そんな人々と初に会い、あいさつをかわしつつ、欧州の実情が見えてきた。各地の日本人同士が、JやIのもとに組織的にまとまっているわけではなかった。各自がIやJの誘いを受けて、パレスチナやアラブの私たちに助ける意思を持っており、その具体企画に対して、在欧の中心メンバーたちが「これはあいつならOKだろう」などと、プロジェクトチームをつくるような格好になっているようだった。

仲間の在欧日本人はみな60年安保に反対して闘ってきた人や全共闘運動の限界から大学をやめて、または卒業して、欧州に留学という形から、何かを掴もうとしている人々だった。そして困っている闘争者を助けようとする連帯の心意気があった。ベ平連の人々が、徴兵拒否したイントレピットの4人の米兵を北海道からソ連の協力を得て、ストックホルムに亡命を実現させたように、一つ一つの困難に協力し合ったりして、在欧の仲間の幾人かはすぐに他国の解放運動を助ける経験をした人も居た。

欧州では、また、私は彼らの紹介でいくつかの海外の革命組織や人々にも、今後の政治共同のために会った。また、ドバイ闘争に参加したラテン・アメリカのグループのリーダーアシェンとリビアのことも話し合った。在欧の第三世界の革命武装闘争組織支援をめざすグループは様々に地下組織を持っていた。それらは第二次大戦の反ナチ闘争の流れを汲むグループであったり、またイタリアのグループにはマフィアと協力関係もあるという。そうしたところから、武器や身分証の供給を受けるグループもあった。ドイツの武装グループは武器をNATOの武器庫から調達してくるというのは、当時すでに有名な話であったし、また、パレスチナ解放運動の支援で、軍事訓練や武装条件を整えている人々もいた。在欧の新左翼の多くはソ連に呼応してきたヨーロッパの旧共産党に反対し、またはユーロ共産主義の革命放棄を批判しつつ、独自の労働運動や地域自主管理運動や環境反基地闘争問題などを基盤に活動している組織が多かった。日本の新左翼やブント赤軍派の運動にはない大衆基盤があった。彼らは武装闘争にすべてをかけて闘うという選択肢を取っているようには考えられなかった。日本の「左翼」だったブントや赤軍派など労働者や農民市民の基盤がかけていて、如何に教条的観念的かを知る思いであった。また、ヨーロッパで会った人々の一部には、「世界党や世界赤軍を、スペイン人民戦線の発展形態として、

目的意識的に組織していこう」と考えを述べる人もいた。日本でもそうだったが、大学や労働組合の運動基盤のないところでは、やはり財源の枯渇が大きな問題であり、今回もいくつかの組織や仲間たちが、いわゆるM作戦に参加し、共同したいと考えているのがわかった。すでに在欧の仲間の打診に、武器の調達や人材の提供に積極的だという人もいるという。

また、解放放送局の設置の話も夢の実現のように私をわくわくさせた。インドネシアかフィリピンの場に、解放放送局を建てよう話し合い、動きはじめていた。私も協力し、日本人技術者の友人たちにそのプロジェクトに協力できる技術者をさがしてもらったりしてきていた。パリではそうしたプロジェクトが日本、フランスのいわば資本主義国の人間と、アジアのいわば第三世界の人間が協力共同して動きはじめていた。こうした構想の実現のためにも、財源は確保しなければならぬ。「ホンヤク作戦」と名付けられた財源調達作戦は、計画も立っていないうちから、「日本赤軍」としての組織の独立やアジア統一戦線の強化のために、また、解放放送局のためにと、どんどん財源確保の成功が絶対条件となっていた。これは、当時、欧州の仲間とアラブの仲間をつなぐ位置にあった私の主観的な思惑をさらに膨らませた。

欧州にはこれまでの実績から、いろんな組織から信頼をえているJがいる。Yら軍事的部署の者が協力しあえば、作戦は組立てられ、うまくいくものと安易な考えがあった。Jの統括のもとで「ホンヤク作戦」はIの実践指揮下でさらに進めることになった。

パリで集まったJ、K、G、Y、私たちの雑談のような討議を抽出してみれば、ホンヤク作戦は実現させる。そのためには、在アラブと在欧の日本人が参加し、不足するところはPFLP以外の在欧の組織の協力をえる。ラテン・アメリカのグループとかつてスペイン人民戦線で闘ってきたトロツキストのグループ、インドネシア人のグループなど、Jの判断で作戦計画にあわせて、協力関係をほりさげていく。

ターゲットの第一は商社Mとする（他の欧州の日本人に被害がないか配慮し、可能性も考えていくが、これまでのところMとする）。ついては、長期持久的な調査として、地域に一定期間滞在して調査を行なうこと、そのうえで作戦実行プランを固めるということになった。まず、隠れ家の確立をして、調査すれば何とかするという主観的な見通しだった。

5. アデン軍事訓練

これまでPFLPの軍事局ではレバノンの難民キャンプや南部戦線で、集団的な軍事訓練を定期的に行っていた。リッジ闘争に至るまでの71、72年の間は、軍事局の指揮下のフィールドで、アウトサイドワーク局と訓練や人材も選抜し合ったり、訓練の協力、教官のかけもちもあった。リッジ闘争後は、岡本さんの供述によってアウトサイドワークのパールベックの非公然の村の訓練所も空爆された。その後はバグダッドやアデンにアウトサイドワークの訓練所を持っていたので、レバノンの他でも、外国人訓練が時々行なわれていた。

72年以降、軍事訓練、軍事活動をめざして何人も日本人の人材が招請によって、あるいは志願して、PFLPに訪れてきていた。ニザールが、自分の出身組織であるVZ58を軸にして、それらは対応してきていた。74年ニザールの不在時にはYやWが加わった。しかし、Yを中心に、パーシム時代のようなチームとしてリーダーシップをつくるような形にはならなかった。その時になって、私はいかにパーシムが人々を統率しリーダーシップをとってきたのかを理解した。PFLPアウトサイドワークの要請に応えつつ、同時に仲間を一つにすること、このパーシムが負っていた役割は「だれでもできるもの」ではないのだとわかってきた。

ドバイ闘争前からアウトサイドワークの中で、ニザ



ールは74年夏の訓練を計画していた。ニザール本人不在のままだったが、計画どおり進めることになった。欧州の組織からの要求もあって、アウトサイドワークで主催し、アデンで訓練を行なうことになった。日本から、VZ58も予定通り来るし、また、欧州の日本人やアジア人の要請があって計画どおりに訓練を行なうという。実際、2月にはVZ58のTが訓練を求めてベイルートに到着している。ちょうどTが到着した時には、シンガポール・クウェート闘争直後の非常時保安体制で、作ったばかりのベイルートの日本人同士の連絡センターは、PFLP保安部の指示により一時閉鎖避難していた。そのため、Tは連絡しても電話が通じなかった。自力で「ピラを多くはってあるところ」を探し、PLOに辿り着き、そこからPFLPを訪ねてきた。

私とYがヨーロッパに行く時期に、残りの者たちはアデンでのアウトサイドワークの訓練に加わるようになっていた。PFLPのスケジュールに沿って、その条件作りをYらが準備してきた。

すでに73年にWはYと共に軍事訓練を受けていた。それで、Yも私も欧州に行くので、Wが教官を補佐し、通訳や新しい訓練仲間と軍事を担う者同士のチームワークを育ててほしいと伝えた。Yは欧州の調査に、私はリビアに欧州に立つ条件で、Wがそれらのアデンで行なわれる軍事訓練の引率役になった。

一年に一度は各地から集めて、軍事訓練をできるように確保するというニザールの計画の時期に合わせて、あちこちの希望人材が集まってきた。欧州の訓練希望は彼らが直接アブ・ハニに申し出たものであったが、それらの人々もまた、私たち日本人の訓練に合流し、共同した。アデンにはラテン・アメリカ、アジア、日本人たち、それにパレスチナ人や、アラブ人の教官といった人々が集まった。メニューは一般訓練である。

拳銃や小銃などの構造学習からはじまる。そして実技演習では、20メートルの標的で拳銃射撃訓練、自動小銃クラシニコフの100メートルの射撃訓練や爆発物の取り扱いからRPG7（バズーカ砲）の実射訓練や格闘技などである。

私はパリからプラハ経由で6月初め頃中東に戻った。そしてすぐ、私はベイルートでPFLPのアブ・アリ議長代行に、リビアの報告とアウトサイドワークとは一緒にやらない私たち独自のホンヤク作戦の可能性を話しておいた。当時は、まだPFLPの指揮下にあり、独自化をめざしていたので、議長代行のアブ・

アリには、それらを報告し了解してもらうためである。そしてまた、ドバイ闘争部隊やラテン・アメリカのアシエングループからのアウトサイドワークへの要求（ドバイ闘争戦士らの釈放に責任を負うべきだといった手紙など）を伝えた。そして、アデンに向かった。

パリで会っていた人たちから、訓練に参加しているアジア人たちと、政治討議と今後の共同などを話してくれということで、アデンで会うことになっていた。彼らは、アジアの組織のリーダーたちだという。それに訓練に来ている日本の人々とも会って話をする約束をしている。その中から、ホンヤク作戦にかかわってくれる人がいたら頼むつもりだった。Yは自分の調査の役割に代わって長期にドイツで調査する人材を、アデンの仲間のうちからWを指名した。

人材は何人も居ない。WかPに頼もう。PはPFLPへボランティアとして志願して来た人であった。

アデンに着くと、ANMの友人が迎えにきていた。南イエメンは、69年の民族解放闘争の民衆蜂起によって、英国を追い出して革命政権を樹立した。その時からANMの仲間の一人であった。彼は革命前は英国人の運転手として働きながら地下闘争をつづけ、今では知事である。PFLPの友人と共に空港に車で迎えてくれた。3時間くらいか、湿気と熱気のアデンの6月、すでに日本の真夏の季節より暑い40℃を超える中を走って小高い丘の上についた。これが訓練宿泊所らしい。

そこはかつてイギリス植民者が住んでいた屋敷だったとのことで、一軒だけ高台にある石造りの家で、丘の下には土をかためた庶民の家々が広がっている。それを見下ろすように建っていた。教官たちは顔見知りである。パレスチナ人からラテン・アメリカのアシエングループの仲間やアジア人を紹介してもらった。Wはまだ慣れていないまま、教官補佐をまかされてとまどいつつ、よくみんなの先頭に立っていた。教えることのできる人がいないために、Yにしろ、Wにしろ、右も左もわからないままPFLP仕込の闘いの道に入っていた。

Wは訓練宿舎で再会し、ホッとしように私に言ったものだった。「なんとかやっています。いろんな奴が居てまとまりが取れないんですよ。すぐ怒ってカッとなる奴、理屈ばかり言う奴、日本のことしか考えてない奴、興味本位で何考えてるのかわからん奴、それにうるさい〇〇さん……もういろんな奴がいて、ハイ、でも、みな筋はいいと思う。こんなもんでしょ」な

どとニコニコして言う。「すぐ怒ってカッとなるのは〇〇さん、理屈ばかりは〇〇さん」などとWの言うのを私は笑って当ててみせた。「御名答です。ハイ」などと言う。

Yと私はWにこれまでのパリでのいきさつを話した。そして、Yがこの際だから、それなら訓練にちょっとしたホンヤク作戦のメニューを入れてもらったらどうかとすぐに動いた。Yから教官たちに頼むと、訓練に加わっていたイラク人のSが「OK！まかせておけ」と、すぐにプランをたてて、リアリティーをもたせて訓練するという。検問中にパスポートが偽だとわかってやられそうになり、相手を威嚇射撃して逃げるという筋書きとか、後に演技入りで熱演してくれたらしい。その上、忍び込んでビルから飛び降りるとか、あれこれメニューに加えたらしい。

この時欧州でのホンヤク作戦での報告しつつ、引き続きホンヤク作戦の調査活動をWに頼んだ。Yがアウトサイドワークの部署から長期抜けると支障があるし、またドイツでの交通違反の件で少し間をおかないとバレてしまうかもしれない。欧州を知っているPも加わってもらったらどうかということで、訓練に参加していたPもホンヤク作戦調査中の在欧部隊に加わってほしいと頼むことになった。

当時、ゲリラ戦に加わり覚悟すれば、非合法になり「おたずね者」になってしまう。自分もそうだが、進んでボランティアに来た戦士たちの闘いの後の人生について考えをめぐらす余裕もなかった。それでもアラブに居る限り不自由はない。今どう闘うしか考え切れていない分、誰も以降の人生がどうなるか？など思いを致すことができなかった。

そうしたことに私の方は配慮も自覚も欠けていた。それはパーシムたちがそうだったように、その新しい場と条件の中で、自分で切り開いていくものと思っていた。自分もそうしてきたし、また、軍事ボランティアの道も、あたりまえにそうしてきたパーシムのやり方に倣うべきだと考えていた。そのため、私は自分の生き方に責任を負うとは考えていたが、他人の命をひき受けているとか左右しているという自覚に欠けていたと思う。

この時、アデンでインドネシアのグループの人と話した。彼らは、私より少し上の世代のインテリたちだった。彼らは、訓練はまずリーダーから率先すべきと、参加をずっと前から要請していたらしい。インドネシア共産党の歴史は、すでに他の仲間から聞いて

いたので、現状とこれからの政策方針について語り合った。

私が、アデンの共同訓練はどうか?と尋ねると、「国民性も違うかもしれない。自分たちの身体が、まだ訓練に慣れていない。自分たちには日本人がするような朝のラジオ体操のようなものはない。第二次大戦時、インドネシアでも占領日本軍が教えようとしたが、抵抗の印としてやらなかった」と言う。彼らは日本人と訓練して戸惑ったのが正直な気持ちだと言った。

そして、「日本人戦士たちの突撃精神がすごい。断固としてやる。訓練中怪我をしても、多少のことなら突撃を止めないで突き進む。でも、そのすごさを見ると、この人たち、赤軍はすごいけど、人民の入り込む余地がないように思えるんだ」というようなことを言った。「すごい」を誉めているよりも戸惑い、これではない何かを、人民戦争として探しているようだった。

彼らは、当時、毛沢東の紅軍の人民の軍隊などの良質なところを継承しようとしていたが、9・30クーデターで、国内での合法的な闘いが失われてしまった。北京に居て、生き残った政治局員が時の中国政府の言いなりになっているのを批判してきた。新しい闘いを模索しているところだった。

プラハなど国際学連に居た者や留学生たちに、学習と待機の指示をくり返して10年近い。ベトナム反戦やパレスチナの果敢な闘いの時代、インドネシアの若者たちが古いリーダーと離れて、独自の組織や解放軍を作りたいと願ったのは当然だった。

こうして、在欧のアジア人の協力で少しずつインド

ネシア本国内に連絡を復活し、軍事的力量も備えようと、74年から訓練を開始したのだった。「日本人の赤軍の人たちの闘い方には、人民の入り込む余地がない」この言葉は妙に私の胸に刻まれていつまでも気になった。「私たちの闘いは、直接人民の中に入りえていない。それでも、未だない国内の革命組織と結ばれている。また、PFLPを通してパレスチナ人民と結びついているように、人民の代表たる世界の闘う組織と結ばれている。それらを通して人民と結びついているのだ」そう弁明した。でも、彼らの言葉の方にこそリアリティがあったのを忘れられない。この言葉は後の彼らや他の組織との共同の中で、何度も思い出す言葉であった。

それでも、これからの共同、インドネシア帰還計画や解放放送局など、具体的な協力や活動について語り合った。アデンと一緒に訓練して居た欧州の仲間の話しやJから聞いていたこと含めて理解できた。そして、共に闘うために協力したいと思った。実力もないのに。それは、やはりホンヤク作戦の実行から進めなければと、強く思った。

111号 お詫びと訂正

- 7頁右列2行目 白* → 白梅
- 11頁左列下から2行目 一夜 → 一衣
- 12頁左列15、17行目 誦費税 → 消費税
- 13頁右列18行目 石解 → 石斛
- 16頁右列27行目 悪いし → 無いし
- 17頁右列35行目 感じたのだろう → 感じなかったのだろう
- 19頁24行目 L → Y

後書

プチ切れている。切れていない方がどうかしているのではないか。

国は食品の放射性セシウムの暫定規制値を基準値に変え数値をきびしくしたが、ではちょっと前まで言っていた暫定規制値とはいったい何だったのだ。スピーディを隠し米軍情報を隠した国の基準を誰が信じるか。にもかかわらず、農地や海を破壊されながら「基準値以下ですから」と言って野菜や魚を売るしかない。原発にもあの経済産業省原子力安全・保安院がとりまとめた「暫定安全基準」というのがあるが、核廃棄物の最終処理場が無いことが示しているように、そんなものあるはずがない。安全とか経済にとつとてか言うな。地球上生命体の問題なのだ。

プチ切れを大事にして持続してシコシコとデモに行くことにする。Q

連絡先 〒105-0004 東京都港区新橋2-8-16 石田ビル5階

救援連絡センター気付 「重信房子さんを支える会」

郵便振替 00110-4-613941 オリーブの樹

銀行口座 三井住友銀行 赤羽支店 226-3687269 オリーブの樹

頒布価格 500円

「正誤」表

第 112 号

- ① 2P4行目 ライラも八王寺に→ライラも八王子に
- ② 2P5行目 感謝の再開も→再会
- ③ 3P1行目 (短歌) ~旧友声きこゆ→旧友の声きこゆ
- ④ 4P(5/15)上ら10行目 日本とは?と聞かされて「小さな島に、いくさも~
(カギカッコ)
- ⑤ 4P(5/15)左下から8行目 ~に装置に似た→~の装置に似た
- ⑥ 4P(5/16)左下から3行目 季節を肌感じ→季節を肌で感じ
- ⑦ 6P左上から6行目 言ったときと→言ったと(トル)
- ⑧ 6P左上から8行目 方とされていますが→方をされていますが
- ⑨ 6P(5/30)9行目 寛大な・措置に→寛大な?措置に
- ⑩ 8P左3行目 ~していますかくね!!→~していますからね!!
- ⑪ 10P(6/21)1行目 仕事でまた主張→仕事でまた出張
- ⑫ 10P(6/22)4行~5行目 「5月25日~→6月25日
- ⑬ 10P(6/26)下から4行目 ~手術中のリンパ→手術中にリンパ
- ⑭ 11P(6/20)下から5行目 シャープ1本→シャンプー1本
- ⑮ 11P(7/2)左下1行目 レモン一切れ→レモンティ
- ⑯ 11P(7/2)右3行目 栄養点丁記は→栄養点滴は
- ⑰ 11P(7/3)下から12行目 800g→80g
- ⑱ 13P左上から14行目 「指定医」→「指名医」
- ⑲ 13P右下から5行目 「指定医」→「指名医」
- ⑳ 17P左上から10行目 60年安保・・に反対
→60年安保やベトナム戦争に反対(挿入)
- 21 17P左上から18行目 すぐに地図の~→すでに地図の
- 22 20P(111号おわび訂正の囲み) 13 頁烈 18行目→13 頁列 18行目」